

# 金沢市内における山手の集落

金沢市埋蔵文化財センター 前田雪恵

## はじめに - 金沢市の地勢と弥生遺跡の分布

金沢市は北東 - 南西に長く、その東半分は標高約80~120mの丘陵で、そこから複数の小河川が海や潟へ注いでいる。市域の西半分は平野で、海際は小規模な砂丘となる。

市内ではほぼ全域で発掘調査が行われており、弥生時代の遺跡の分布が『金沢市史』<sup>1)</sup>でまとめられている。そこではほぼ平行に流れる河川（伏見川・金鶴川）によって市域を三つに大別し（A・B・C）遺跡が集中する地区をグループ化した結果、Bの平野部に大きなグループがあり、拠点的な集落や、前期または中期から終末期に及ぶ存続期間の長い集落はここに集中していることがわかった。一方、A~C全ての丘陵裾や斜面など山手にも、少ないながら弥生時代の遺跡が分布している。

## 1 山手の遺跡の特徴

山手にある遺跡の要素を第1表にまとめた結果、平野部に所在する遺跡とは下記の点で異なることがわかった。なお竪穴系建物とは竪穴建物の一種と考えられているものを指し、床は半地下式で、地上に土壁を築き、壁の周りを周溝状に掘りこむ構造となっている。

存続時期が短く、その時期は後期後半~終末に集中する。

遺物に金属器を含まない。（塚崎遺跡は例外である。）

遺構に水利施設（井戸、溝）がない。

玉作りに関する遺構・遺物が少ない。（塚崎遺跡は例外である。）

同一遺跡内に集落と墓地が併存しない。（若松遺跡は例外か。）

建物は竪穴または竪穴系建物が多く、掘立柱建物、特に布掘建物は少ない。

建物の建替え回数、建物の数が少ない。

## 2 山手に集落を築く理由と目的

山手の集落は後発的に現れるから、その住人は、平地の集落から移住してきたものと前提する。そのうえで、山手の集落の性格を次のように推量してみた。

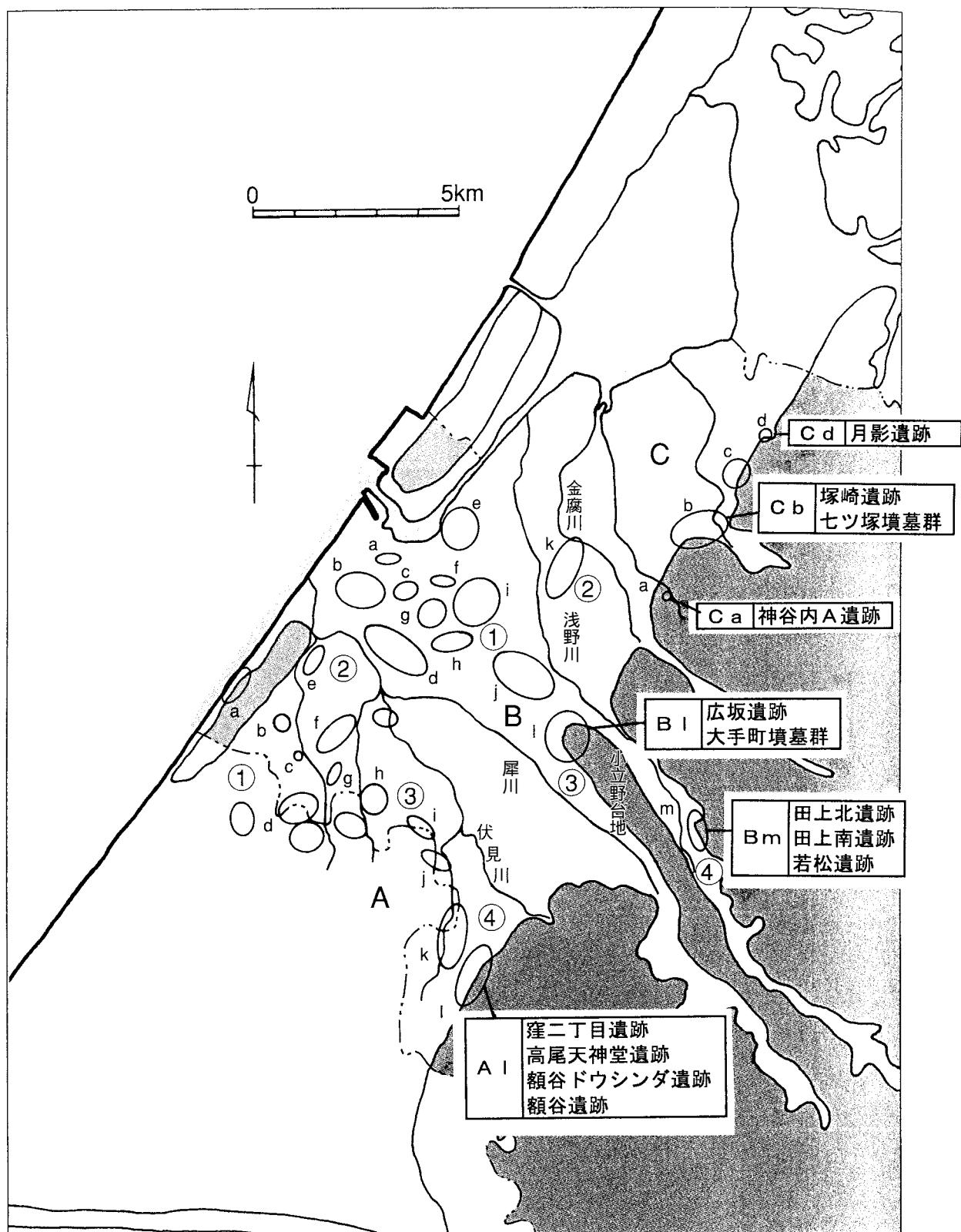
段丘下に平地があるにも関わらず段丘上に集落を築き、建物の戸数が少ない若松遺跡・田上北遺跡・田上南遺跡は、水害を避けるためのやむをえない選択の結果であり小規模な移住であった。

周囲に平地がない場所に集落を築き、建物の戸数が多く、建替えを行い、倉庫（布掘建物または大型貯蔵穴）をもつ塚崎遺跡・神谷内A遺跡・額谷遺跡は、何らかの意志を持って山手を選んだ大規模で安定した移住であった。

との対比として、全域を掘削しても戸数が少ない遺跡が発見された場合、平地から数家族単位で移住したもの、または集落のある機能だけを山手に移動させたものと考える。

これらは戦時における「高地性集落」の要素を満たしていない。ならば山手に集落を築いた目的は何であったのか。今後の課題としたい。

註1 2004年 橋本澄夫ほか 「第一編 原始」『金沢市史 通史編1 原始・古代・中世』 金沢市



第1図 金沢市域の弥生時代遺跡の分布図（注1文献から改変）

A 伏見川左岸

安原川左岸 (a~d)  
安原川右岸~十人川左岸 (e~g)  
十人川右岸~高橋川左岸 (h~j)  
高橋川右岸~伏見川左岸 (k~l)

B 伏見川右岸~金腐川左岸

犀川右岸~浅野川左岸沖積平野 (a~j)  
浅野川右岸~金腐川左岸沖積平野 (k)  
小立野台地先端周辺 (l)  
浅野川右岸河岸段丘 (m)

C 金腐川右岸

(a~d)

第1表 金沢市内で発掘された主な山手の遺跡

地区	遺跡名	立地	検出面高(m)	時期	検出遺構			土器以外の遺物	備考	出典
					掘立柱・布壙建物	豎穴・豎穴系建物	他			
Ca	神谷内A遺跡	丘陵先端	25~28	後期後半~終末	-	豎穴系3	土坑1・貯蔵穴1・土器だまり1	管玉6・砥石	周辺の尾根に古墳群あり	1
Cb	塚崎遺跡	丘陵先端の台地	29~32	後期後半~終末	掘立柱1・布壙3	豎穴27	土坑80余(貯蔵穴37・土坑墓か40余)・半環状溝2	鉄製工具・玉作・管玉・勾玉・ガラス玉・鏡片・土錘・匙状土製品	中核的集落・大型豎穴複数集落をほぼ全掘隣の丘陵に七ツ塚墳墓群	2
	七ツ塚墳墓群	丘陵の側縁	55~71	後期後半~終末	豎穴1	-	台状墓3・方形周溝墓13・木棺墓38	鉄製工具・鉄製武具・管玉・勾玉	隣の丘陵に七ツ塚古墳群	3
Cd	月影遺跡	丘陵裾	20前後	終末	-	-	廃棄土坑1	貝殻・玉小片	調査面積32m <sup>2</sup>	4
Bl	広坂遺跡	段丘	24前後	中期後半~終末	豎穴2	-	溝・土坑・土器だまり1	-	-	5
	大手町墳墓群	段丘	23	後期後半~終末	-	-	方形周溝墓1・同区画溝1・同埋葬施設5・埋葬施設(木棺墓か)1	-	-	6
Bm	田上北遺跡	河岸段丘上	45~51	終末	-	掘立柱1	溝1	-	-	7
	田上南遺跡		52~53	終末	豎穴1	掘立柱2	土坑・溝	鉄鏃	-	8
	若松遺跡		42~49	終末~古墳初頭	豎穴3	掘立柱6	土坑・土器だまり1・周溝状溝7	石器・軽石	-	9
Al	窪二丁目遺跡	丘陵裾	44~45	後期後半	豎穴状1	-	土坑	砥石	-	10
	高尾天神堂遺跡	丘陵裾	43	終末	-	掘立柱1	土坑・弧状溝2	-	-	11
	額谷ドウシンドア遺跡	丘陵裾	49	後期後半~終末	豎穴系1	-	-	-	-	12
	額谷遺跡	丘陵裾斜面	64~66	後期後半~終末	豎穴系9	掘立柱7・布壙1	土坑・溝	打製石斧・台石・砥石	-	13
			59~64	後期後半~古墳初頭	豎穴系5	掘立柱4・片側布壙1	-	-	調査区は上記の統き	14

\* 遺構がなく、遺物だけ発見されている遺跡は含まない。

\* 「玉作」は玉の未製品もしくは工具をいう。

- 2002年 『金沢市神谷内A遺跡』 金沢市文化財紀要184 金沢市埋蔵文化財センター
- 1976年 『塚崎遺跡』『北陸自動車道関係埋蔵文化財調査報告書』 石川県教育委員会
- 1976年 『金沢市七ツ塚崎遺跡』『北陸自動車道関係埋蔵文化財調査報告書』 石川県教育委員会
- 1962年 浜岡賢太郎・吉岡康暢 「加賀・能登の古式土師器」『古代学研究』第32号
- 2005年 『金沢市広坂遺跡(1丁目)』 金沢市文化財紀要223 金沢市埋蔵文化財センター
- 2002年 『金沢市前田氏(長種系)屋敷跡』 (財)石川県埋蔵文化財センター
- 2003年 『金沢市田上北遺跡・田上東遺跡・田上遺跡群』 金沢市文化財紀要198 金沢市埋蔵文化財センター
- 2006年 『金沢市田上南遺跡・田上遺跡群』 金沢市文化財紀要233 金沢市埋蔵文化財センター
- 2004年 『金沢市若松遺跡・田上遺跡群』 金沢市文化財紀要212 金沢市埋蔵文化財センター
- 2005年 『金沢市窪二丁目遺跡』 金沢市文化財紀要218 金沢市埋蔵文化財センター
- 2000年 『金沢市内遺跡発掘調査報告書』 金沢市文化財紀要158 金沢市埋蔵文化財センター
- 1984年 『金沢市額谷ドウシンドア遺跡 金沢市無量寺B遺跡』 金沢市文化財紀要44 金沢市教育委員会
- 1998年 『金沢市額谷遺跡』 石川県立埋蔵文化財センター
- 2006年 『金沢市額谷遺跡』 (財)石川県埋蔵文化財センター